

「2018年トリプル改定から考える2025年に向けて 実践すべきリハビリテーション」

～「関わる時期」や「関わる領域」を超えて実践する多職種連携リハビリテーション～

やまだリハビリテーション研究所
作業療法士 山田 剛

1. 国や厚労省がリハビリテーション専門職に求めている事
 - 平成16年 高齢者のリハビリテーションのあるべき方向
 - 平成27年 高齢者の地域におけるリハビリテーションの新たなあり方
 - 平成27年 介護報酬改定
 - 平成29年 医療と介護の連携に関する意見交換会
 - 平成30年 トリプル改定

2. 2018年トリプル改定のこと
 - 診療報酬改定
 - 入退院支援加算のこと
 - 介護報酬改定
 - 4段階のリハマネ加算
 - 生活行為向上リハ実施加算
 - 訪問看護ステーションからのリハビリのこと
 - 障害福祉サービス改定
 - 相談支援専門員との連携
 - 居宅型児童発達支援

3. 活動と参加へのアプローチ
 - 病院でも生活期でも必要な活動と参加へのアプローチ
 - 退院後の生活を考慮した病院リハビリ
 - 退院後の「病院と同じリハビリ」問題
 - 多様なリハビリテーションのあり方
 - 触らないリハビリテーション
 - 活動と参加へのアプローチ
 - リハビリテーションマネジメント

4. リハビリテーションマネジメント

- 病院では看護・介護と連携したマネジメント
- 生活期ではケアマネと連携したマネジメント
- マネジメントの実際
 - ◇ リハビリテーションの目的はマネージメントすること
 - ◇ 目標設定
 - ◇ 期間の設定
 - ◇ 目標の達成度合いの確認
 - ◇ 多職種のリハビリテーションへの関わりのアドバイス
- 病院ではリハビリテーション実施計画書でマネジメント
- 生活期ではリハマネ加算でマネジメント
- 退院支援と介護保険のリハビリ

5. 領域を超えた連携が必要となってきた

- 病院リハビリと生活期リハビリの連携とつながりが必要
- 多職種連携⇒多事業所連携⇒多領域連携の実践
- あなたの領域のノウハウは他の領域にも活かせる
 - 小児領域と高齢者のグループ訓練のこと
 - 1 対多数の対応の必要性
 - 児童デイと老健スタッフの少数職場という悩み
 - ALS のコミュニケーション支援と超重症児のコミュニケーション支援
 - 地域で少数派の職場はいっぱい、生き残りのノウハウは同じ
 - 病院と地域の連携
 - ケアマネとのお付き合いノウハウ
 - 在宅の ADL 支援のノウハウ
 - 退院前カンファレンスのノウハウ
- 自治体レベルでのリハ職の連携を目指せ
 - 石巻圏域リハプロジェクト

6. 2025年に向けて

- 地域包括ケアシステムの「範囲」での連携を意識する
- リ・スタートすること
- あっちがどうかこっちがどうかではなく、近接する領域を理解することで今の領域のノウハウが充実する
- それぞれのノウハウを共有する
- 活動と参加の未来にあるのはポジティブなリハビリ人生

お知らせ

普段は2日に一回以上のペースでコラムやnoteサイトを更新しています。すべての更新情報はFacebookページでお知らせしています。よければフォローしてください。

コラム更新情報はFacebookページで発信

<https://www.facebook.com/yamada.reha.labo>



新しい「学びの形」を提供しています

やまだリハビリテーション研究所のnote

https://note.mu/yamada_ot



やまだリハビリテーション研究所のLINE@始めました

ID検索は @yamada-ot.com



TwitterのIDはこちら

@yamada_ot_labo

